

看護にいた

Vol.
149

公益社団法人 新潟県看護協会機関誌

令和4年
2月20日発行



さくら軌道（五泉市）

つながる・ひろがる・たかめる～専門性の高い看護～

- 専門性の高い看護職員の育成事業 Part 2
有資格者の情報交換・活動推進～ネットワークとその活動～ ③
- 認定看護師としての活動内容およびネットワーク活動 ④⑤

2 | 職能委員会

3 | 専門性の高い看護職員の育成事業 Part 2
有資格者の情報交換・活動推進～ネットワークとその活動～

4 | 認定看護師としての活動内容およびネットワーク活動

6 | 訪問看護推進事業の取り組み

8 | ワーク・ライフ・バランスの推進・魅力ある職場づくり

9 | 知事への「令和4年度予算に対する要望書」提出について

9 | 会員を対象とした協会活動に関するアンケート結果（概要）について

9 | 奨学金のご案内

10 | 新潟県ナースセンターからのお知らせ

11 | 「ナースシップ」よりお知らせ

11 | 私の手料理召し上がれ！

12 | お知らせコーナー

新潟県看護協会会員数（2月1日現在）

◎会員総数 16,378名

保健師 810名 / 助産師 612名 /

看護師 14,407名 / 准看護師 549名

職能委員会 意見交換会報告

保健師職能委員会

保健師職能委員会委員長 星野 明子

今年度は、ACPをテーマにした職能集会、地域包括支援センターに所属する保健師の情報交換会、及びコロナを含め自然災害時に保健師に求められる能力についての研修会を開催しました。Web併用としたためか、どの事業にも多数参加がありました。

中でも、昨年度中止した情報交換会を開催できたことは有意義でした。令和元年に地域包括支援センターに所属する保健師を対象に行ったアンケートから、一人配置

でその役割や専門性について悩んでいる保健師が多いことがわかったので、悩みや思いを共有・共感できる機会を作りたいと思い開催したものです。会員以外の参加も多く、実践報告から活動のヒントがもらえたという声も聞かれ、主催者としてもよかったと思える会になりました。今後も保健師のネットワークを拡げる活動を考えていきたいと思っています。

助産師職能委員会

助産師職能委員会委員長 佐藤 志津子

現在日本では、晩婚化・晩産化、育児の孤立化などによる妊産婦・乳幼児を取り巻く環境が変化しています。近年の報道においては児童虐待による子供の命が失われる痛ましい事件が目立ちます。その中で助産師の役割は、安全・安心な出産、妊娠から産後まで切れ目のない支援、そして他職種との適切な「地域連携」が重要となります。2022年1月28日に「妊娠・出産・育児のための地域包

括ケアシステム～行政・病院それぞれの現場での取り組みより～」と題して意見交換会を開催する予定です。各地域で母子の支援が強化されていると思いますが、今回の意見交換会を通じて、助産師の役割の重要性と新潟県全体の母子のための地域連携体制がさらに整備されることを期待します。

看護師職能Ⅰ委員会

看護師職能Ⅰ委員会委員長 長岡 敦子



令和3年度の意見交換会は、「せん妄と認知症を学び実践に活かそう」をテーマにオンライン研修を開催しました。講師に新潟県厚生農業協同組合連合会新潟医療センターの精神科認定看護師片野快宏様をお招きしてご講演いただきました。コロナ禍により研修計画では対面を予定していましたがオンライン研修に変更し募集定員80名のところ50施設124名の希望があり全員に参加して頂きました。倫理面や内服のタイミング、患者の人格を尊重することの大切さ等を学べる内容でした。研修後のアンケート結果では現場に活かせる99%で満足度の高い研修となりました。

看護師職能Ⅱ委員会

看護師職能Ⅱ委員会委員長 河内 学

令和3年11月20日（土）に、「新型コロナウイルスに関する3大講演」と題し、新潟県のコロナ対策の取り組み状況と新型コロナウイルス感染症対策の基礎知識と発生時の対応法について3名の講師から講演していただきました。今回、初めてハイブリッド研修を行いました。慣れない機械操作等に不安を抱きながらの開催でしたが、大きなトラブルもなく終えることができ委員一同安堵した次第です。受講者数は86人と例年より多い参加

数でした。受講者の多くはオンライン参加で、アンケートからもオンライン研修を肯定する意見が多くみられました。コロナ禍によってオンライン研修を併用したのですが、結果として参加しやすい研修開催法を一つ手に入れたような感覚を受けました。今後も、参加者視点に立った研修のあり方を考慮し、タイムリーかつニーズに沿った研修を企画していきたいと思っています。

専門性の高い看護職員の育成事業

Part 2

有資格者の情報交換・活動推進～ネットワークとその活動～

新潟県看護協会 常務理事 五十嵐 伸子

専門性の高い看護職員の育成事業『新潟モデル』を、前回の看護にいがたVol.148で紹介させていただきました。『新潟モデル』は、ゆっくりではありますが、一歩ずつ、専門性の高い看護職員の育成に向けて、動きはじめました。

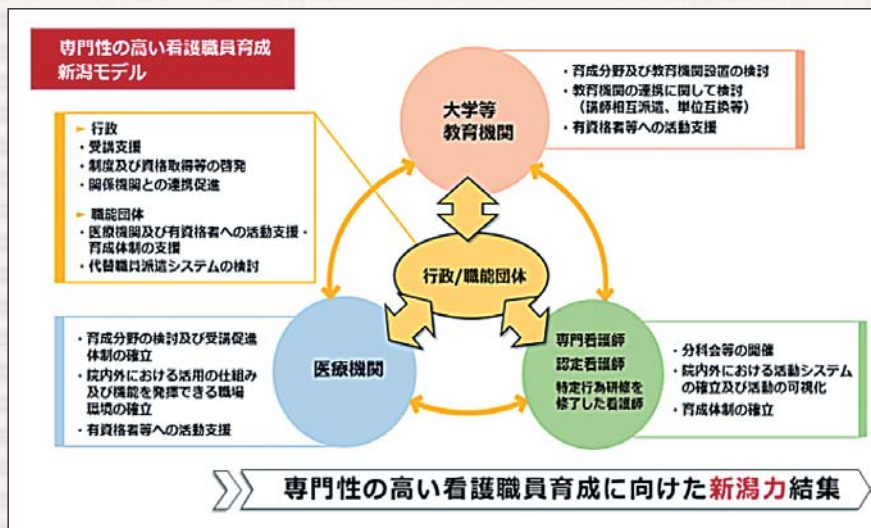
新潟県看護協会の役割の一つとして、有資格者の資質向上と活動発展のため、活動の可視化と活用促進の仕組みづくりを行うことができます。看護にいがたでは、つながる・ひろがる・たかめる～専門性の高い看護～として、県内で

ネットワークのある4つの分野（感染管理、手術看護、皮膚・排泄ケア、摂食嚥下障害看護）の認定看護師のネットワーク活動を紹介しています。Vol.148では、手術看護認定看護師の穴沢様と、感染管理認定看護師の塩入様が活動の実際を報告しました。その内容を簡単に説明します。

手術看護認定看護師は現在11名ということでしたが定例会議を2か月ごとに開催し、情報交換やセミナー企画・運営に取り組んでいるということでした。2019年の「手術を受ける高齢者の看護を学ぼう」では認知症看護認定看護師や医師を講師としたことで、認知症の看護についての視点が広がり、協働することの重要性を確認できたということでした。

次に、感染管理認定分野からは、ICCN（感染管理ネットワーク新潟）・CHAIN（新潟医療関連感染制御コンソーシアム）の活動の紹介がありました。特に、高齢者介護施設の感染対策の実際とニーズ調査を行ったこと、その結果をもとに、根拠に基づいた看護ケアの手順書を作成する活動を行ったという実践報告では、地域の看護の質を高めるための活動に積極的に取り組んでいる様子がよくわかりました。

感染管理認定看護師の皆様には、出前研修をお願いすることが多いです。特に2020年度は〈新型コロナウイルス感染症に係る対応マネジメント研修〉として、県内10か所の施設で出前研修を行っていただきました。依頼時期はコロナウイルス感



染拡大の只中で、自施設でも感染管理に迫られるなか、迅速に対応していただきました。

そのネットワーク内の連携にも驚きましたが、それ以上に驚いたことは研修の内容でした。出前研修ですので、依頼元の施設に合わせた内容をお願いしています。それに対応したわかりやすい工夫、そして、何よりも、感染管理の基本的な部分は、根拠も含め、ブレがありませんでした。当たり前のことかも知れませんが、情報や知識の共有のすばらしさを目の当たりにしました。実際に研修前に、ニーズの把握やゾーニングのため、施設訪問をしてくださる方もいました。

この活躍ぶりを県内の皆様に理解していただきたいと思います。また、精一杯、強い使命感をもって役割を果たそうとしている有資格者の皆様への支援の方法を探っていきたいと思います。

これらの活動の紹介と並行して、看護協会では、有資格者のネットワーク推進に向けた意見交換会を開催しました。4分野の代表の方に集まいただき、ネットワークづくりの経緯と活動内容について情報交換を行い、他分野のネットワークづくりにむけて具体的な支援策を検討しています。「皆が集まること、分野を越えて認定看護師が集まると視野が広がる。」そのような声がありました。

『新潟モデル』をもとに、つながる・ひろがる・たかめる～専門性の高い看護～をかたちにできるよう皆さまと協働していきたいと思います。

「認定看護師としての活動内容およびネットワーク活動」

新潟県立燕労災病院

皮膚・排泄ケア認定看護師 三須 恵美子

皮膚・排泄ケア認定看護師とは？

創傷・オストミー・失禁看護において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護師のことです。皮膚・排泄ケア認定看護師（以下WOCNと略す）は、ケア実践だけでなく、医療従事者から相談を受けたり、ケアを指導する役割もあります。

それぞれのケアで担っている役割を紹介します。

W (Wound)=創傷

皮膚トラブルや創傷の発生を予防できるように、皮膚を健康に保つことができるスキンケアを実施します。また、創傷を治すために、生活環境や局所環境、寝床環境などを整えるケアを行います。



O (Ostomy)=ストーマ（人工肛門・人口膀胱）



ストーマ造設手術を控えている方にストーマケアの情報を提供したり、ストーマを保有されている方のストーマ周囲皮膚の管理、ストーマ装具の選択、日常生活のアドバイス、精神的サポートなどを行います。

C (inContinence)=失禁（尿や便の漏れ）

病気や手術後、加齢によって発生する尿や便失禁の改善を促すケアを行います。また、失禁による皮膚トラブルに対する予防や改善のためのケアを行います。



私の活動

褥瘡管理者として専従で横断的に活動しています。高齢者の入院が多く、褥瘡ハイリスク患者が増えており、毎日各病棟のラウンドをして予防から発生の管理を行います。褥瘡に対しては多職種と連携し、カンファレンスや褥瘡回診を週1回行っています。また、床ずれ外来を担当し、家族指導やケアマネージャー、訪問看護師への情報提供も行っています。時には訪問看護師と同行訪問して、在宅での褥瘡のケア、ストーマケアを一緒に行うこともあります。そして、在宅看護の現状把握と顔の見える関係を作るため、燕市の地域看護検討会にも参加しています。

ストーマ造設患者には、適切な装具選択や指導が行えているか、確認しながらスタッフの支援をしています。また、ストーマ外来では年間160～180件介入しています。

失禁ケアについては、排泄物の漏れや皮膚トラブルの予防目的で、適切なおむつを提供するシステムの導入をしました。また、排尿ケアチームの立ち上げ、尿道留置カテーテルの早期抜去を促し、排尿が自立できるように支援しています。2016年からは排尿自立指導料の算定を開始したので、週

1回は介入患者のカンファレンスを多職種で行っています。

PHS片手に院内を動き回ってあっという間に1日が終わり、机についたら、メールでの相談対応です。忙しくてもいろんな経験をさせていただき、充実した毎日を送っています。

同じ志を持った仲間・ネットワークについて

認定看護師教育課程では年代も違えば、職場環境、職位の違う看護師が全国から集まります。同じ志を持ち、苦楽を共に学び合う間に、切磋琢磨し合える良い仲間となります。卒業後も活動の情報交換できる同期のネットワークもあります。また、県内には新潟WOCN会があり、年に1回は定例会を行っています。各学会の情報共有や北越4県対象の北越ストーマリハビリテーション講習会の準備、勉強会、ストーマ保有者の障害団体（雪椿友の会）の支援などを行っています。メールで情報共有や相談ができる県内WOCNのネットワークもあります。

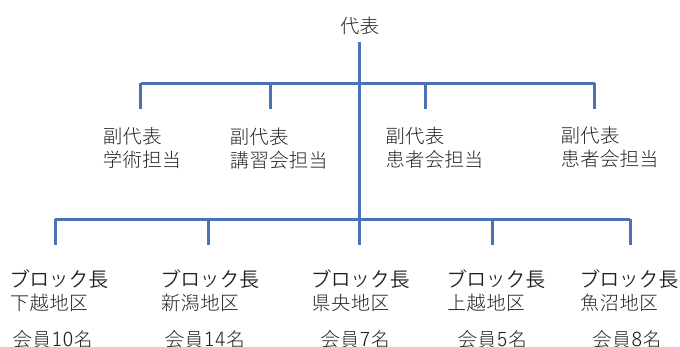
組織横断的に活動していると、課題に難渋し悩み、時には孤独感を感じることもありますが、同じ志を持った仲間、ネットワークの存在が、大きな力、支えになっています。

目指そう！専門性の高い看護師

褥瘡においてWOCNの専従は費用対効果が高いことが明らかにされており、WOCNの組織横断的活動は、患者アウトカムの上に繋がることが示唆されています。そして、創傷にWOCNが関与することで、患者のQOLや創処置への満足度が高くなることも分かっています。

医療の高度化や社会の高齢化が進む中、患者の生活の質を高めるために、特定分野に特化した専門性の高い看護師は益々必要とされます。専門看護師・認定看護師は自らの仕事に意義や誇りや面白さを感じ、情熱をもって取り組むことができるとしています。さあ、「やりたい仕事」「なりたい自分」を実現させましょう！

新潟県皮膚・排泄ケア認定看護師会（47名）



「認定看護師としての活動内容およびネットワーク活動」

五泉中央病院

摂食・嚥下障害看護認定看護師 笠原 純子

摂食・嚥下障害看護認定看護師は現在新潟県では11名が活動しています。

活動内容としては、県内の認定看護師は年に1回集まり、病院での悩みや活動報告を行う以外は、個人の活動が主になっていました。数年前から日本摂食嚥下障害看護研究会で甲信越支部が立ち上がり、年1回の総会で活動報告を行っていました。第1・2回は長野県で行われて、県の活動報告と研修を行いました。2019年第3回甲信越支部会を新潟県で行う予定で、準備を進めていましたが、長野県での洪水被害のため中止となりました。この年は新潟県の摂食・嚥下障害看護認定看護師のみで個人の活動報告・研修会を行いました。2020年からはコロナ禍で開催できない状態が続いています。早く研修が制限なく行えて情報交換できると思っています。

個人の活動としては、他職種と関わり、新潟県の高齢者を対処にセミナーを開催したり、サルコペニアを中心に一般にアンケートを行ったり、舌圧測定、指っつか試験などを行い低栄養や筋力低下防止の啓発運動を行っていました。看護、介護職に対して年1回の研究会を行っていましたが、コロナ禍で中止となりましたが、今年は配信で行うことができました。(表参照)

病院での活動は、主に口腔ケアで困難症例のケアの提案や摂食嚥下障害の患者を言語聴覚士や栄養士などと一緒に食形態の見直し、姿勢や一口量

などの調整を行っています。NSTにも参加して低栄養の患者さんに対して多職種で栄養の見直しなどを行っています。

摂食嚥下障害は特に多職種とのかかわりが大きいと感じています。看護師だけでは栄養を改善することはできません。病院でも、医師、リハビリ、栄養士など多くの職種が集らないと誤嚥のリスクを減らすことはできないと感じています。今後は地域にもっと積極的に出ていき、病院で栄養を改善するのではなく、入院前からかわられるといいのではないかと感じています。

一般に食べるにあたり、歯は重要であります。私たちの住んでいる市は高齢化が進んでいます。入院患者の高齢者も多くいます。義歯使用が多くいますが、入院時食べられなくて義歯を装着しないことで、義歯が合わないことや歯周病が進んだことで動揺歯があったりします。動揺歯はいつ抜けるのか、嚥下障害がある患者さんの場合では誤嚥しないのか心配があります。昨年から当院では地域連携室との連携ができました。スムーズに歯科の地域連携室との連絡ができるように、認定看護師として病棟との歯科への連絡方法や家族への連絡方法を説明して、無理なく歯科治療ができるようにかかわっています。

研修会などが制限なくできるようになったら、自分たちだけでなく安全で安心の食事介助などができるような研修会が開けるといいと思っています。

「新潟高齢者の栄養と摂食を支える会」研修会のテーマ

	年 度	テ ー マ
1	2014 年	「誤嚥性肺炎について」
2	2015 年	「地域連携を摂食嚥下の視点して考える」
3	2016 年	「高齢者の栄養管理と摂食嚥下に関わる職種間連携」
4	2017 年	「高齢者の栄養管理と摂食嚥下に関わる職種間連携」
5	2018 年	「人生最終段階における医療・ケアの意思決定サポートを多職種で考える」
6	2019 年	「認知症患者に対しての食支援を考える」
7	2021 年	「地域・施設・病院における胃食道逆流に対する新たな対策」



訪問看護推進事業の取り組み

「訪問看護従事者研修（管理編）」 を受けての感想

下越訪問看護ステーション
五十嵐 裕 子

令和3年度の訪問看護従事者研修会（管理編）に全6回にわたり参加させていただきました。受講目的は、主任として訪問看護管理者の役割、求められる能力や心得を学び、スタッフとともに働きやすく、地域や在宅療養者の方々のニーズに寄り添っていくステーションであり続けられる為の学びを得たいということでした。

私が勤務する下越訪問看護ステーションは、1993年に開設され、規模拡大と機能強化とサービスの質向上をすすめて続けている伝統あるステーションです。地域のニーズに対応し「地域で暮らす、地域で生きる」方々の、在宅での療養・生活を支える訪問看護ステーションとしての期待や役割はさらに高まっていると実感しています。

研修会では、管理者となる看護師は、「コミュニケーション・共同意思・共通目標」を軸にステーションの中でスタッフ間の意思疎通をしっかりとれるようにすること、やりがいやモチベーションを向上させる機会を持ち続けることが大切なのだと気づかされました。

そのために、理念や達成したい目標を明確に、BSCや運営に関することも含めてスタッフと検討する機会を持つこと、それぞれのキャリア開発に向けての意識を持ち続けることで常にフロー状態を意識し、質の高いケア、働きやすい組織を作っていくことが大切であると学びました。

また、老々世帯率の増加や核家族化など様々な家族の形は、訪問看護師にとって一人に対応することの多い場面で、家族に対して継続的で個別性の高いきめ細やかなケアが求められており、看護師自身が悩むことも多いです。家族支援を学んだことで、人間性豊かに多様な考えや思考を支援につなげられるよう、カンファレンスも共有しながら行っていきたいと思います。

経営面の管理に向けては、訪問件数を安定するためには、一つ一つの積み重ねを大切に地域で喜んでいただけるよう、「いつでも・どこでも・誰もが」必要な医療・介護が受けられるよう、ステーションの強みを発信していきたいです。



訪問看護ステーション 運営アドバイザー事業を受けての感想

十日町市訪問看護ステーション おむすび
諏訪部 有 子

当ステーションは、十日町市が令和3年7月に開設しました。看護師、リハビリ職ともにスタッフ内に「訪問看護」の経験者は一人もいませんでした。このため、開設の準備にあたり、何をどうしたら良いか分からないまま過ぎていく日々が続きました。そのような中、新潟県看護協会の「運営アドバイザー事業」が目にとまり、相談をさせていただき、開設に必要な書類の内容や作成方法、スケジュールなどについて細かく教えていただきました。

また、開設直前には、当ステーションにお越しいただき、現地指導を受けることで、多くの不安を解消することができました。訪問時の心構えや注意点、持ち物、必要物品などのご助言は、とても参考になっています。特に病院や診療所とは異なる視点で看護を実践する「楽しさ」を教えていただいたことは貴重な財産となりました。

今後は、いただいたアドバイスをもとに、当市が目指す「出向くケアと医療」の充実に向けて努力して参ります。これからもよろしくお願いいたします。



訪問看護推進事業の取り組み>>>>

新潟県看護協会訪問看護 総合支援センターの設立について

常務理事
青 柳 玲 子

【これまでの当会訪問看護関連事業の取組み】

在宅医療や看護への地域のニーズの高まりに対応し、1992年から新潟県ナースセンター事業の一環として、訪問看護の人材育成や実態把握などの訪問看護推進事業に取り組んできました。

2015年から当会の重点目標に「地域包括ケアの推進」を掲げ、2016年の当会組織改編により体制を強化した訪問看護推進課を中心に訪問看護推進事業を拡充してきています。これまでの取り組みから、①訪問看護師の安定的な人員確保、②中重症者の24時間在宅療養を支えるための看護提供体制の整備、③訪問看護の質の向上、④経営の安定化への支援などの課題が明らかになっています。

このような多岐にわたる訪問看護の課題を一体的・一元的に解決し、地域における訪問看護提供体制の安定化・推進支援を図る拠点として「新潟県訪問看護総合支援センター（以下、支援センター）」を当会組織内に位置づけ機能させるよう、令和4年度設立に向けて準備を進めています。

【情報収集で明らかになった課題】

現在、訪問看護の課題に対応できる支援センターの機能を整備するため、各地域の訪問看護ステーション協議会支部会議に出向き情報収集を行っています。

24時間訪問看護提供体制の課題については、県内

は小規模事業所（職員常勤換算数が5人未満）が多いことから、職員1人当たりの1カ月の緊急時携帯当番回数や深夜対応した翌日勤務の軽減措置は事業所間で差があり、多くの職員が精神的・肉体的に疲労感や負担感を感じていることが明らかになりました。

人材確保、経営安定、人材育成体制の充実に向けたステーションの大規模化（看護職員常勤換算数10人以上）については、人員確保の困難さや異なる運営母体の事業所間合併が容易ではないことなどにより、事業所の努力だけでは実現は難しいことが課題となっています。全国では大規模ステーションがより効果的な運営のためにサテライト事業所を設置する動きがありますが、県内ではあまり進んでいません。

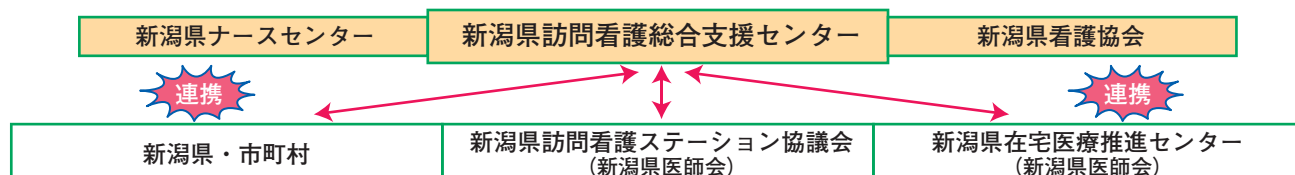
さらに、人材確保が困難な課題は県内全体に共通しており、特に中山間地域は事業所数も少なく訪問看護師不足は深刻でした。一方で、新潟市内は事業所数も多く重症度の高い在宅療養者が減少傾向で経営不安につながっていることなど、地域により抱えている問題が異なっていました。

【今後に向けて】

今後は、新潟県や関係機関との連携を図り、このように地域ごとに異なる課題を検討し、地域特性を活かした訪問看護提供体制を整備していく必要があります。支援センターでは、これらの課題にきめ細やかに支援ができるよう、1. 運営支援、2. 訪問看護に従事する人材の確保、3. 訪問看護の質の向上、4. 訪問看護ネットワークの推進という4つの目的を掲げ、図1の事業を実施していきます。会員の皆様の期待に応えられる支援センターを目指し整備していきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

図1 新潟県訪問看護総合支援センター（案）

訪問看護ステーションの人材確保促進 - 訪問看護就業支援プログラム（インターンシップ）事業 - 訪問看護教育プログラム体験研修 - 潜在看護師・プラチナナース等の就業及び転職促進 - ナースセンターと連携して行う訪問看護の周知及び就職斡旋・相談対応 - 現状と課題について行政と共有し具体的な方策を検討 - 離職防止対策の検討	事業所運営基盤整備支援 - 訪問看護ステーション運営アドバイザー事業により、管理者への運営・経営支援及び人材育成支援 - 訪問看護師育成サポート研修により人材育成・訪問看護質向上への支援 - 新規開設及び大規模化を目指す事業所への支援
事業者・利用者向け相談支援 - 事業者向け相談対応 - 住民からの相談対応 - 訪問看護事業に関する相談対応についてQ & Aの作成	教育研修実施体制の体系化 - 訪問看護関連研修の体系化 - 新任者育成のためのマニュアル作成及び関係機関との連携による研修体制の整備 - 新卒看護師採用に向けた取り組み
訪問看護に関する関係機関との連携促進 - 訪問看護推進協議会において訪問看護に関する課題検討 - 訪問看護ステーション協議会との連携によるネットワークづくり	訪問看護の周知・啓発 - 周知啓発用リーフレット配布 - 関係機関、地域住民への出張周知啓発活動
	訪問看護に関する情報分析 訪問看護実態把握に関する調査



「ワーク・ライフ・バランスの推進・魅力ある職場づくり」



看護職の WLB 推進情報交換会の報告

新潟県看護協会労働環境改善推進委員会 副委員長 米持 妙子

令和3年10月21日に新潟県研修センターにおいて、桑名病院の水澤貞子看護部長と魚沼基幹病院の阿部美由紀看護副部長から、医療従事者のワーク・ライフ・バランス事業取り組みの報告をしていただきました。この事業は、新潟県医師会の医療勤務環境改善支援センターの社会保険労務士、医業経営コンサルタント、新潟県看護協会労働環境改善推進委員が協働し支援する、厚生労働省から委託された事業です。

皆さんもご承知のように、人口の減少、若い世代の職業意識の変化、医療ニーズの多様化、医師等の偏在などにより、医療界では、医療従事者の確保困難が大きな課題となっています。このような中、当事業は、質の高い医療提供体制の構築を目的として、勤務環境の改善を図り、医療従事者が健康で安心して働くことができるよう勤務環境の改善・整備を後押しする仕組みです。

今回、2病院が2018年5月から2020年5月までの2年間、勤務環境改善に取り組みました。多職種で構成する推進チームを中心に、導入準備・体制整備・現状分析・課題の抽出、全職員に優先される課題別の時間外労働削減・有給休暇取得・キャリアデザインなどのチーム編成をしたうえで、自施設で自立的にPDCAサイクルを回し、少しずつ良い変化を体感されて行かれました。2年間を終わってみると、多職種とのコミュニケーションが深まった。自施設の良いところが改めて見えてきた。そして大きな達成感を病院全体で共有できたという嬉しい成果を発表して頂きました。

参加者は来場者7名、オンライン15名の合計22名で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためハイブリット形式による講義、グループワーク、発表を行いました。看護管理者からスタッフまで混在してグループワークを行いました。皆さんとても熱心に意見交換をされていました。研修後のアンケートでは、(受講者のURL回収率77.3%)、好事例は学びとなった(そうである:94.1%)自施設の課題に対して、自分の立場で何

かできそうである(そうである:94.1%)と、概ね研修の目的は達成できました。受講者からは、「医療従事者の労働環境の問題はこの2病院だけではなく、どこ職場にも共通している。」「具体的な内容がとても参考になった。」「病院あがりの取り組みが重要で、多職種と横断的な関係が構築されて病院が活性化すると感じた。」「発表された看護管理者の熱意に感動や励ましをいただきました。」など、よい評価・感想が寄せられました。

チーム医療では、多職種それぞれの労働が非常に密接に関連しており、看護職だけの労働環境改善の取り組みだけでは、本当の問題解決にはならないこともあります。この問題は、上層部が解決してくれると思われがちですが、上層部と職員が一体となって、自分たちの病院を変えるという病院職員全体の意識改革が鍵となります。労働環境の問題を、どこから手を付ければよいのか悩んでいる方々は、是非この仕組みを活用してみることお勧めいたします。



知事への「令和4年度予算に対する要望書」提出について

令和4年1月17日、「令和4年度予算に対する要望書」を斎藤会長から花角知事へ提出しました。要望内容は以下のとおりです。

1. 看護職員確保対策の強化
2. ナースセンターの機能強化
3. 在宅医療の推進に向けた訪問看護提供体制への支援
4. 感染症対策の充実強化



会員を対象とした協会活動に関するアンケート結果(概要)について

新潟県看護協会 専務理事 太田 昭子

新潟県看護協会では会員の皆様からご理解いただき、令和3年度から会費の値上げを実施いたしました。

一方で看護協会活動について、「活動が見えない」「入会してもメリットがない」等の意見をいただいていることから、会員サービス向上に取り組むこととし、協会活動に対するアンケート調査を実施しました。結果の概要を下記に報告いたします。詳細については今後ホームページ等で報告する予定です。

- 会員が所属する98施設、総数469人(管理者、スタッフ)の会員を対象に実施し、回答率は管理者83.2%、スタッフ81.3%と高く、協会活動に対する会員の関心や期待が高いと認識しました。
- 活動への認知度は、教育・研修事業、職能活動、支部活動、ナースセンター活動、災害支援ナース養成・派遣活動等、身近で直接関わりがある活動が高い傾向でした。一方で、看護職の処遇や地位・労働環境改善につながる要望活動、県民の健康・福祉向上に向けた県等の施策に関与する会議等への参画、県から受託した新型コロナウイルス感染症関連事業の実施など、会員一人ひとりには直接関連のない活動は認知度が低い結果でした。
- 今後の活動への要望は、Zoom等によるリモート環境の充実など設備に関することや教育・研修事業、地域貢献活動、福利厚生等に多くのご意見をいただきました。

アンケート結果は今後の活動に活かしていきますので、今後とも協会活動へのご協力をお願いいたします。

奨学金のご案内 奨学金を進学等にぜひご活用ください！

- ❖この奨学金は、新潟県看護協会の会員向け制度です。
応募年度に初めて会員になる方も対象です。応募時までにご入会の手続きを完了してください。
また、学生で免許取得後会員となる方も応募できます。
- ❖奨学生の採用は業務執行会議の協議において決定します。
- ❖他の奨学金制度や給付金との併用も可能です。
- ❖応募にあたりご不明な点は遠慮なく下記までお問合せください。

対 象：新潟県看護協会会員	貸与金額：月額50,000円以内の希望額、ただし、5.に該当するものは月額30,000円以内
1. 日本看護協会看護研修学校の在校生	募集時期：4月1日～5月31日
2. 看護専門職に関する研修を受けようとする者	返還条件：無利子
3. 准看護師として就業していた者が進学しようとする者	1. 最長で貸与を受けた期間の倍数の月数とし、その範囲内で任意
4. 看護学の研究研修で外国留学をする者	2. 返還開始は貸与期間が終了した6ヶ月以内の任意
5. 看護系大学及び看護学校の学生であって、看護師免許取得後本会会員となる者	3. 返還額は各月均等
貸与期間：貸与決定の月から卒業の月まで	

お申込み：新潟県看護協会HPにて応募年度の3月頃ご案内します。詳しくは以下をご確認ください。

<https://www.niigata-kango.com/file/kyokai/gaiyo/dscr07-2.pdf>

新潟県看護協会HP トップページ>看護協会について>協会概要>情報公開>7.その他-奨学資金貸与規則

お問合せ：新潟県看護協会 総務課 奨学金担当

☎ 025-265-1225 平日9:00～12:00、13:00～17:00

✉ ishida@niigata-kango.com



新潟県ナースセンターからのお知らせ



新型コロナウイルス感染症関連業務に求職登録した看護職の実態調査結果

新潟県ナースセンターでは新型コロナウイルス感染症関連業務にご協力可能と登録した看護職の方に実態調査を行いました。多くの看護職の方にご協力いただき感謝申し上げます。(詳しい結果は新潟県ナースセンターのホームページに掲載予定です)

【調査期間】 令和3年10月28日～11月10日 【調査方法】 Webによるアンケート調査

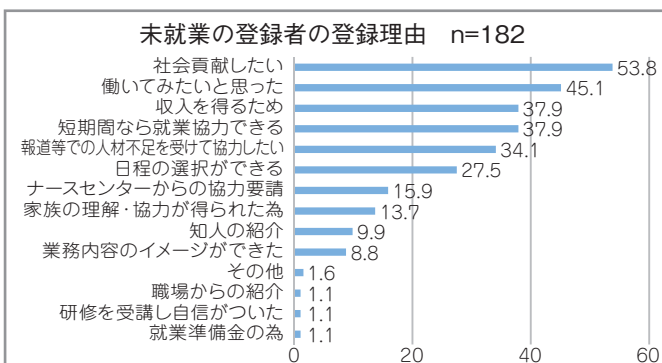
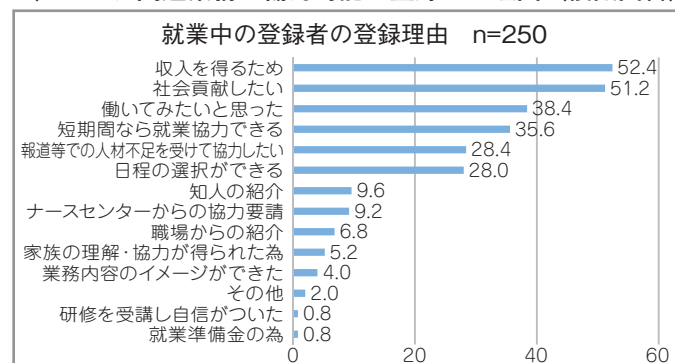
【回答状況】

1) 調査対象数：コロナ関連業務求職登録者1,017人／有効回答数432人(回答率42.4%)

2) 回答者の年齢 n=432

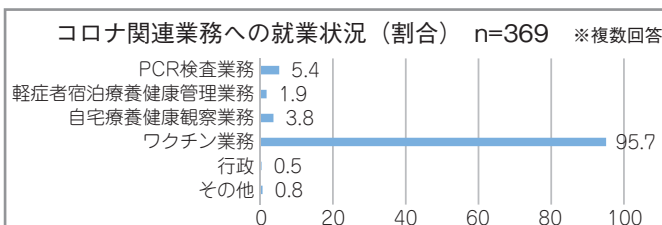
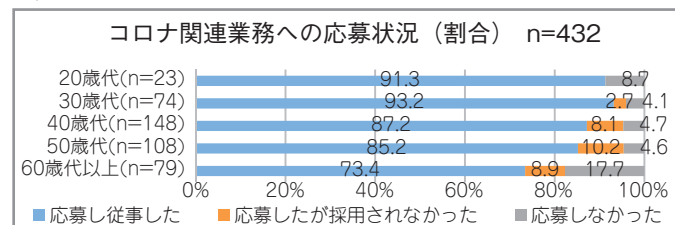
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	割合
就業中	16	49	88	59	38	250	57.9%
未就業	7	25	60	49	41	182	42.1%

3) コロナ関連業務に協力可能と登録した理由(複数回答)



就業中250人の登録理由上位では、「収入を得るため」、「社会貢献したい」、「働いてみたいと思った」が多く、未就業者182人の登録理由では、「社会貢献したい」、「働いてみたいと思った」、「収入を得るため」および「短期間なら登録できる」の順となっています。

4) 登録者の応募状況とコロナ関連業務への就職状況



どの年代も7割以上の方が「応募し従事した」と回答しましたが、年代が上がるにつれ「応募したが採用されなかった」「応募しなかった」の割合が増す結果となりました。また、「応募し従事した」と回答した369人のうち9割以上の方がワクチン業務に従事したと回答しました。

看護師等の離職時の届出制度 ～離職される看護職の皆様へ届出のお願い～

「看護師等人材確保の促進に関する法律」の改正により、離職時等に保健師・助産師・看護師・准看護師の免許保持者がナースセンターへ自身の情報を届出することが努力義務となりました。

【新潟県の届出状況(2015年10月1日～2021年12月31日)】※県外への転入・転出にて変動あり

登録時の方法	個人登録	施設からの代行	ナースセンターでの代理	合計
人数	1,166	888	1,352	3,354

●看護管理者の方は、退職する看護職員に看護師等の届出制度「とどけるん」の登録をお勧めください。

「とどけるん」は、個人でインターネットを経由した届出をすることを原則としています。届出をした後は、離職した看護職が「またいつか働きたい!」をナースセンターがサポートします。届出内容に変更がある場合はナースセンターにご連絡をお願いします。登録は「とどけるん」で検索または下記QRコードから。

届出対象者

- ◇病院等を離職する看護職
(病院等とは、病院、診療所、助産所、訪問看護事業所、介護老人保健施設が含まれます)
- ◇保健師、助産師、看護師、准看護師の業に従事しなくなった場合
- ◇免許取得後、ただちに就業しない場合
- ◇看護職の資格をおもて看護職以外の仕事に就いている方



【お問合せ先】

新潟県ナースセンター
TEL: 025-233-6011
E-mail: niigata@nurse-center.net



「ナースシップ」よりお知らせ

＊2022年度の入会の手続きはお済みですか？

新年度の研修受講をご希望の方は、申込締め切り時点で入会手続きを完了していない場合は非会員の受講料となります。登録には入会申込書の提出後2か月程かかりますので、早めの手続きをお願いいたします。会費納入の状況は会員専用ページ「キャリアナース」ならびに「施設WEB」で出来ます。

入会金	10,000円（初めて入会する方のみ）
新潟県看護協会費	7,500円（支部会費含む）
日本看護協会費	5,000円

＊入会手続きはWEBから簡単に！

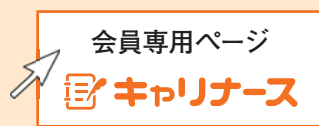
WEB入会は会員専用ページ「キャリアナース」の **新規入会・再入会** をクリック！
郵送にかかる時間が短縮されて、入会手続きが早く完了します。

＊キャリアナースにご登録ください！

キャリアナースに登録すると、

- ① 登録内容の確認や変更ができます。
- ② 資料室がご利用いただけます。
- ③ 研修会受講履歴の確認や証明書の発行も可能です。
- ④ スマートフォンで電子会員証を表示できます。

登録は日本看護協会・新潟県看護協会
HPのここをクリック



ナースシップ
QRコード

＊登録内容に変更はありませんか？

届出がないと大切なお知らせや情報が届かなくなってしまうことがあります。
登録内容に変更があった場合は、下記のいずれかの方法で届出をお願いします。

- ① キャリナースから変更する。
- ② 「会員データ変更届」（新潟県看護協会HPよりダウンロード可）を新潟県看護協会へ郵送またはメール、FAXする。
- ③ 所属変更により会費納入方法が口座振替になる方は、「都道府県看護協会・日本看護協会入会申込書/会員情報変更届」または「キャリアナース」より口座情報の登録をお願いします。

【お願い】 ご登録内容等の確認のために、お問い合わせをさせて頂く場合がありますので、キャリアナースにキャリアメールをご登録の方は、『@niigata-kango.com』からのメールを受信できるよう、設定をお願いいたします。

入会に関するお問い合わせ先：公益社団法人新潟県看護協会 総務課 会員登録係



みんなも
作ってみよう

材料（4人分）

ご飯……………3カップ分
合わせ酢
酢……………大さじ4～4.5
砂糖……………大さじ3
塩……………小さじ2
ツナ缶詰……………小3缶（285g）
砂糖……………大さじ1
しょうゆ……………大さじ1強
卵……………2～3個
甘酢しょうが……………1～2袋
青じそ……………10枚
焼きのり……………6枚

私の手料理召し上がれ！

公益社団法人新潟県看護協会 訪問看護推進課 竹内 則子

- ① 合わせ酢の材料は火にかけて溶かし、すし飯を作ります。
- ② 鍋にツナ缶を油ごとあけて火にかけ砂糖としょうゆを加えて汁けがなくなるまで炒り煮します。
- ③ 青じそは洗ってペーパータオルにのせもう一枚ペーパータオルを重ね水けをとります。甘酢しょうがはざるに上げ水けをきります。
- ④ 卵は溶きほぐして、薄焼き卵を3枚作ります。
- ⑤ 20cm×20cmのタッパー容器（重なるもの3個）
タッパー容器に大きめにラップを敷き、すし飯1/6量を詰め、ツナを半量敷き詰め、さらにすし飯1/6量を詰めます。青じそを4～5枚のせて、甘酢しょうがを半量敷き、薄焼き卵をのせて、すし飯を1/3量のせてラップをかぶせます。以上の手順でもう1個作り、タッパーを重ねて押します。
- ⑥ しっかり押したら、容器から取り出し、ラップを取り除き3等分に切ります。1本に1枚の海苔を巻きます。（長さを寿司の長さにカットします。）

お知らせコーナー

訪問看護関連研修

令和4年度 訪問看護に関連する研修のご案内

- 訪問看護従事者研修会（新任者編）
～公益財団法人日本訪問看護財団「訪問看護eラーニング（訪問看護の基礎講座）も活用します～
・訪問看護概論 ・在宅ケアシステム ・訪問看護過程と記録 ・フィジカルアセスメント
・リハビリテーション ・家族関係論 ・実習 など
- 訪問看護従事者研修会（管理編）
・役割と運営 ・リーダーシップ論 ・労務管理 ・リスクマネジメント ・実習 など
- 訪問看護従事者研修会（スキルアップ編）
・排便ケア ・ストーマケア ・面接技術 ・慢性心不全の看護 ・化学療法を受ける人の看護
- 在宅看護（入退院支援）研修会
・地域ケアシステム論 ・訪問看護の実際 ・医療機関と地域との連携など



*詳細は、HPをご確認ください。

教育研修

2022年度 新潟県看護協会看護学会

- 11月30日（水） 朱鷺メッセにて会場参集とWeb+学会終了後、オンデマンド配信予定

2022年度 認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セカンドレベル

- セカンドレベル 5月18日（水）～ 7月20日（水） 募集期間 2月15日（火）～ 3月14日（月）
- ファーストレベル 7月27日（水）～ 10月14日（金） 募集期間 3月8日（火）～ 4月7日（木）

2022年度 医療安全管理者養成研修

- 11月2日（水） 対象：医療安全管理者、または1年以内に医療安全管理者になる予定の者
日本看護協会オンデマンド研修（35時間）を終了後の研修です。

*詳細は、HPをご確認ください。

2022年度 看護の日事業

～看護の日事業は「思いやり・支え合い・命の大切さ」をコンセプトに、いつでも、どこでも、だれにでも「看護の心をみんなの心に」を広く普及することをねらいとしています～

開催日：2022年5月12日（木） 開催場所：新潟グランドホテル

- 【プログラム】（予定）
- 看護業務功労者新潟県知事表彰
 - 優良看護職員新潟県看護協会会長表彰
 - 高校生一日看護師体験発表会
 - 市民公開フォーラム

♪日本看護協会のPRバスが走ります♪



2021年10月～2022年1月 新館図書

- 1 新版 訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル 第4版
公益財団法人日本訪問看護財団 監修 日本看護協会出版会
- 2 看護学の概念と理論
野嶋佐由美 編 日本看護協会出版会
- 3 “認知症と拘束” 尊厳回復に挑むナースたち
平岩千代子 執筆 田中とし江・小藤幹恵・永田久美子 監訳 大熊由紀子 監訳 日本看護協会出版会
- 4 看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンブック
坂井浩美・山崎啓子 著 日本看護協会出版会
- 5 ナイチンゲールの越境5-宗教- ナイチンゲール、神の僕となり行動する
徳永香・千尾真智子・佐々木秀美・野口理恵・眞壁佳郎・大北全俊・伊藤幸史 著 日本看護協会出版会

- 6 これからの倫理と看護
手島恵 著 日本看護協会出版会
- 7 看護現場で役立つ文章の書き方・磨き方 論理的に伝える技法
因京子 著 日本看護協会出版会
- 8 「チーム医療」とは何か 第2版 患者・利用者本位のアプローチに向けて
細田満和子 著 日本看護協会出版会
- 9 Nursing Todayブックレット・14 #生理の貧困
#みんなの生理（堀井みのり）七ノカ・吉沢量子・田中美子・田中ひかる・河野真太郎 執筆 日本看護協会出版会
- 10 スタッフナースのための6ステップ目標管理 看護の想いと頑張りを成果にする方法
高田誠 著 日本看護協会出版会
- 11 看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2021
公益社団法人日本看護協会 編 日本看護協会出版会

- 12 家族看護を基盤とした地域・在宅 看護論 第5版
渡辺裕子 監修 中村陽子・本田彰子・炭谷瑞子・山田雅子・永田智子 編 日本看護協会出版会
- 13 医療安全実践ガイド 第2版 チームで活かす知見と対策
東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 著 日本看護協会出版会
- 14 ポストコロナ時代の「通いの場」
近藤克則 編 日本看護協会出版会
- 15 認知症plus 終末期ケアとACP
山川みやえ・重信和恵・長瀬亜岐・竹屋泰 編 日本看護協会出版会

■発行：公益社団法人 新潟県看護協会
新潟市中央区川岸町2-11 TEL025-233-6550 FAX025-266-1199
<https://www.niigata-kango.com/>
■編集：広報委員会



今年度も多くの皆様にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。
今後も皆様のお役に立てるように情報をお伝えしていけるよう、委員会一同努力して参ります。

広報委員：伊藤 神田 西潟 川口 大堀 植木 koho@niigata-kanngo.com